



バーレーンで展示会を主催

静岡県産品を中心とした初の展示会を開催

2018年11月11日～12日の2日間、バーレーンで初となる静岡県産品を中心とした展示会「Japanese (Shizuoka Pref.) Food & Craft Exhibition Under the auspices of the EMBASSY OF JAPAN Kingdom of Bahrain」を在バーレーン日本大使館の後援を受けて、AKKAS・GALLERYにて開催しました。8月末に御前崎港より家具や工芸品、ドライ食品を輸送。合計100点以上の商品と関係パンフレット、ポスターなどを持ち込み、書道や着物などの日本の文化体験と静岡の食の体験、工芸品の紹介を合わせる形でイベントを企画しました。



ハプニングと戦った2日間

2日間の予定のうち初日は10年に一度の大洪水にみまわれ、ギャラリーは浸水し、道路は遮断され、やむなく中止。予定の変更を余儀なくされました。水がひけたのち初日は夜の公式セレモニーのみ開催することになりました。悪条件にも関わらず、伊藤バーレーン大使はじめ、現地の要人の方々約50名が足を運んでくださり「食の都・静岡」をPRするプレゼンを行い、寿司や緑茶、スイーツなどの静岡産品を提供。日本文化の紹介も行いました。通常の展示会は1日のみの開催でしたが100名以上の方が来場して下さり好評の中、幕を閉じました。



課題とみえてきたもの

予定通りの開催ができず、十分な対応ができませんでした。来場者の方々の反応はよく「定期的な開催を」「扱う専門店を作ってほしい」という声も多く聞かれました。現地にあわせた「デーツ羊羹」「デーツ大福」「ハラールバームクーヘン」等の新商品も試作し評判は上々でした。また静岡の家具をはじめ工芸品は非常に評価が高く、技術の高さに驚いており、商機があると感じました。ハラールの課題も工夫することでクリアでき、中東でも静岡産品に可能性があることを感じました。また展示会を通じて知り合ったバイヤーをのちに静岡へ招聘し、輸出へとつなげることができました。同時に日本の食品に対し「放射能検査」による輸出規制があることが分かり、在バーレーン日本大使館やJETROに撤廃を陳情。ハラールとは別の障壁を超えていく必要があることもわかりました。

